



一般財団法人

日本AED財団

日本財団 助成金申請補足資料

減らせ突然死プロジェクト

共有型AEDマップシステムの構築を通じた 市民参加型救命プロジェクト

一般財団法人 日本AED財団

2018/10/10



突然の心停止とAED

心臓が止まる人
7万人

そのまま亡くなる人
65,000人

1分経過
10%減る

心肺蘇生とAEDで
救命率**4倍**

必要な事は

自分ゴト化 × 社会ゴト化

心臓突然死対策の重要性



平成23年9月29日、さいたま市の小学校6年生、桐田明日香さんが、駅伝の課外練習中に心停止となり、翌30日に亡くなった。

学校にはAEDが設置されていたにもかかわらず、使用されなかった

院外心停止の現状

- 病院外において、心臓が原因で突然の心停止に陥り、7万人を超える方が毎年亡くなっている

総務省消防庁 平成29年版 救急救助の現況

- 突然の心停止に陥った患者の救命には、**可及的速やかな心肺蘇生の実施とAEDによる電気ショックが有効**であり、それぞれが社会復帰の可能性を2倍に引き上げる

Iwami et al. Circulation 2015;132:415-22.

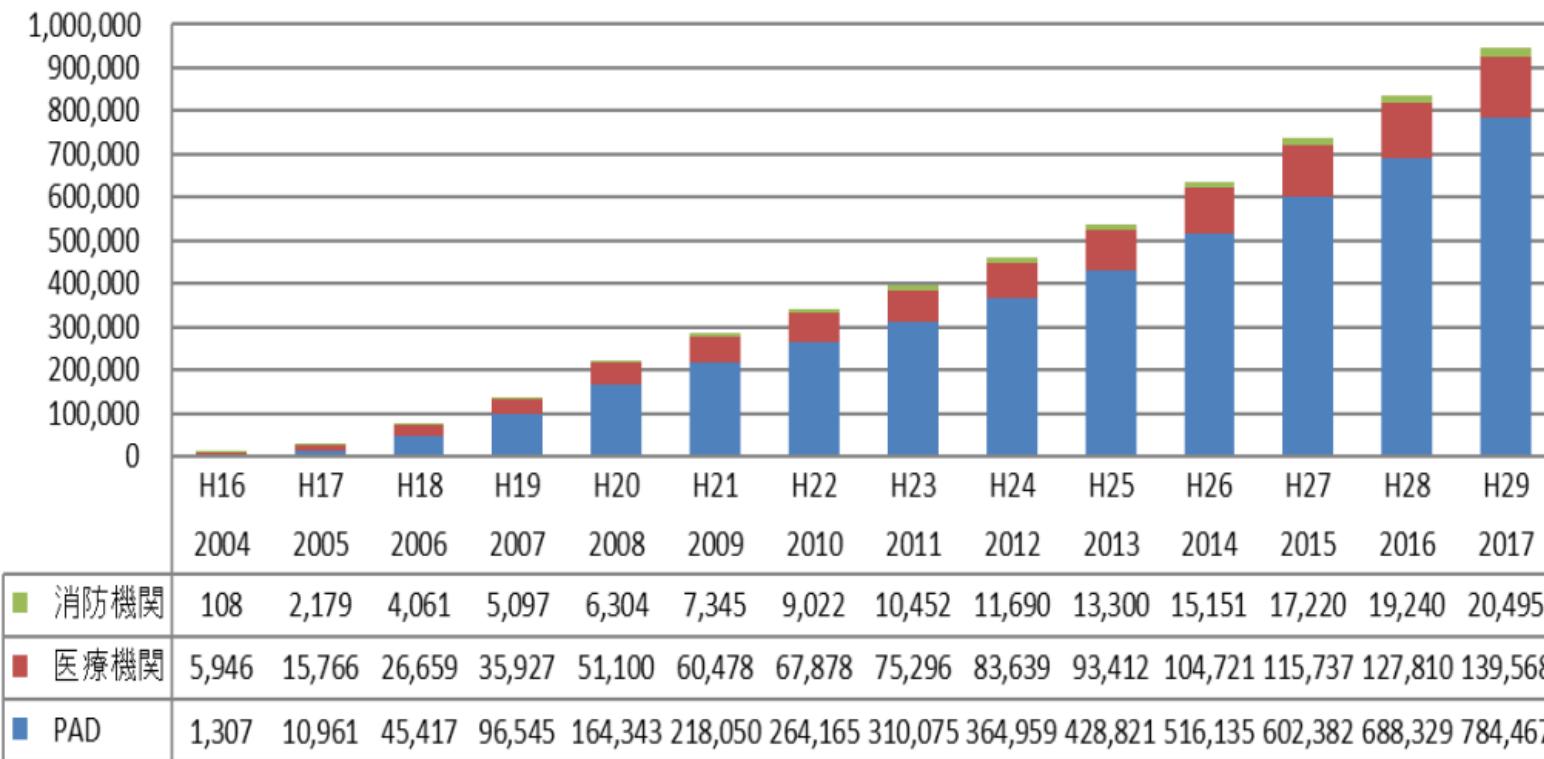
- 市民が心停止を目撃した症例においても、**約半数が救急隊到着まで心肺蘇生法が実施されていない。また、AEDによる電気ショックを受けているのは、5%未満**

総務省消防庁 平成29年版 救急救助の現況



AEDの普及状況

AED販売台数(累計)



出展) 平成 29 年度厚生労働科学研究費補助金 (循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業) 『市民による AED のさらなる使用促進と AED 関連情報の取扱いについての研究』 分担研究報告書

日本財団申請2018

AEDの販売台数は、累計78万台以上。各機材の耐用年数から、販売されてから破棄されるまでの平均期間を7年とすると、57万台が設置されていると推定。

⇒普及は進んでいるため、どう活用していくかが課題に。

救急車到着前の救命処置の効果



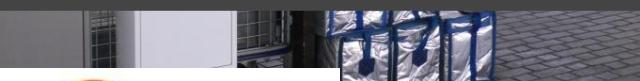
病院での治療は、助かる人を1.1倍にするが・・・



心肺蘇生とAEDは、助かる人を4倍も増やす！

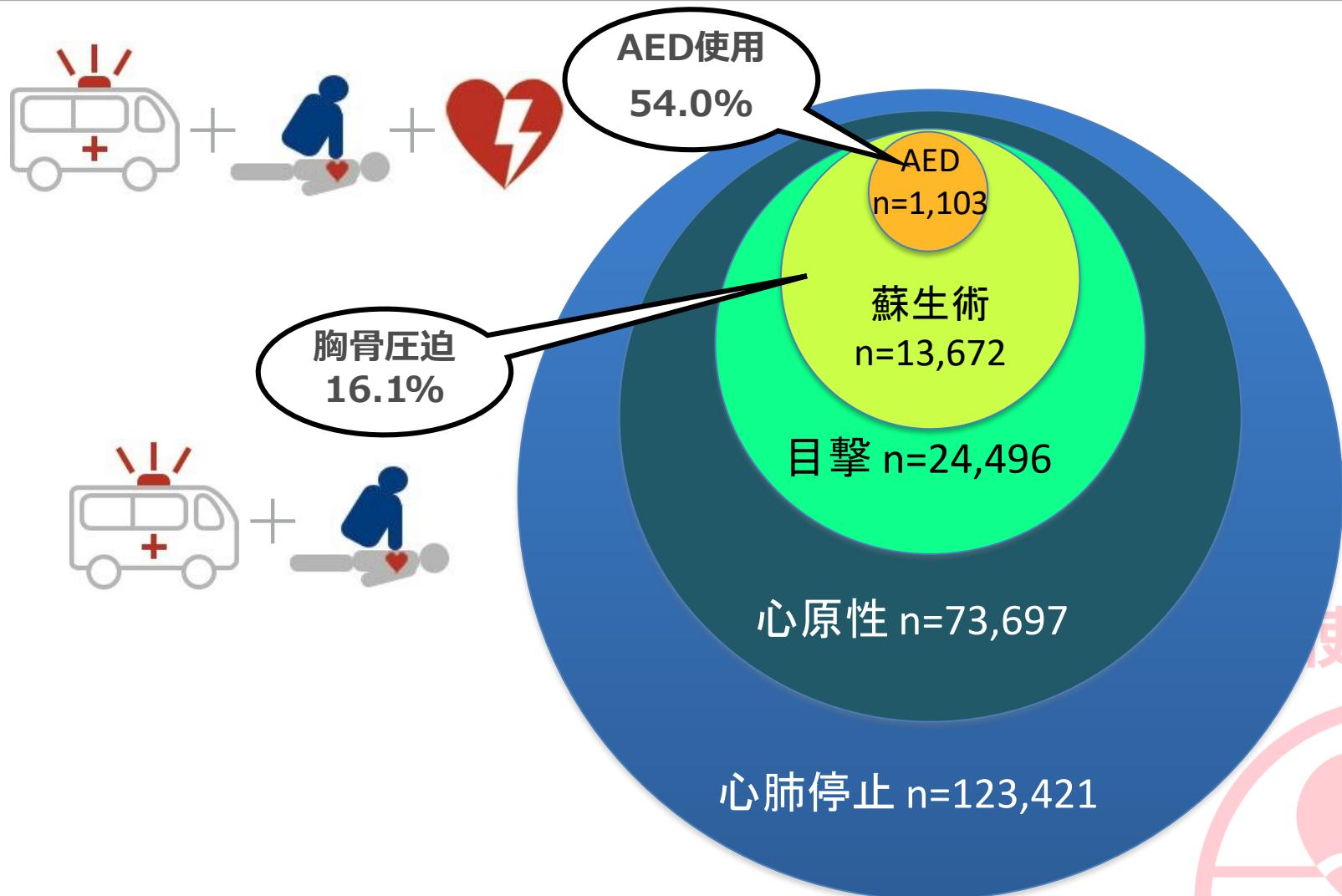


CPR（心肺蘇生）



AED（除細動器）

心停止現場にAEDと救助の手が届いてない



日本AED財団ホームページ
総務省消防庁 平成28年度救急救助の現況より作成
7



AEDを活用して救命率を高めるための課題

AEDが時間内に
現場に届く
仕組みの構築

AEDを使った救
命処置ができる
人を増やす



AEDを活かして更に多くの命を救うために

1. AEDが時間内に現場に届く仕組みの構築

- AEDマップ（設置情報の公開）の質向上と活用
 - 「今使える」AEDの場所が万人にわかるように
- 設置すべき場所には設置し、適切な管理を促すレギュレーション
- ソーシャルメディアを活用した仕組み作り
- 消防・指令室との連携

AEDを有効活用する仕組み

2. AEDを使った救命処置ができる人を増やす

- 完璧でなくてもいいので行動を起こす重要性の啓発。社会的コンセンサス。
- AEDを身近なものへ
- 学校でのAED教育

社会啓発

AEDの設置情報の現状

- ・日本には、AEDの配置に関するレギュレーションは存在せず、団体や個人が任意でAEDを購入、配備している。
⇒ほとんどの地域で、正確なAEDの設置情報は把握できておりず、その管理水準がまばら。標準規格の提唱による、管理水準の底上げが必要
- ・AEDの配備状況を調査、提示している自治体は存在するが、その多くで情報の更新が止まっていたり、AEDの使用可能時間が記載されていないなど、整備が不十分。
⇒AEDの設置情報を正確に共有するための、安価で使いやすいプラットフォームが必要



社会の理解の必要性

- ・心肺蘇生の実施時に負担となる、周囲からのプレッシャーや、個人の負担感を軽減することも重要
- ・実際の現場は混乱し、周囲の人々の力やAEDの音声など様々なサポートを受けつつ手技の実施から救命に至る。

⇒緊急時に市民が救命行為を行うことが、広く社会に認知される
ことが求められる。





突然誰かが倒れたときに・・・

市民が中心となって

『今使える』『近くの』AEDの情報を

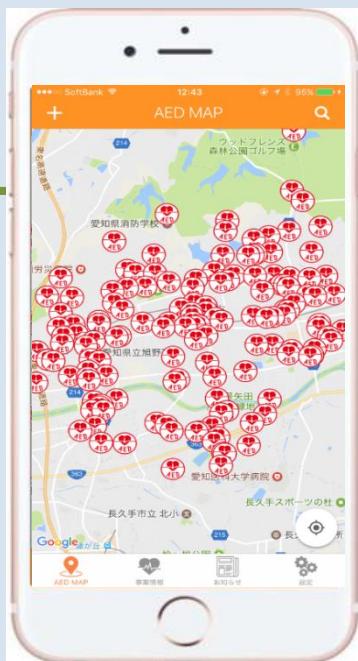
シェアする仕組み作り

プロジェクトの概要

今回の助成
で行う範囲

AEDマップ事業 (AED N@VI)

- AEDの正確な位置・使用可能情報
- スマホから情報をアップデート
- AED認証制度と連動



AEDの情報を多く提供し
たサポーターへ、ポイント付与や表彰等の特典

AED救命支援システム

心停止現場付近にいる登録ボランティアに、消防から救命要請。地図を見ながら心停止現場へAEDを運搬し、救命率の向上を目指す。



心停止
現場



現在地

スマホで繋ぐ命のリレー

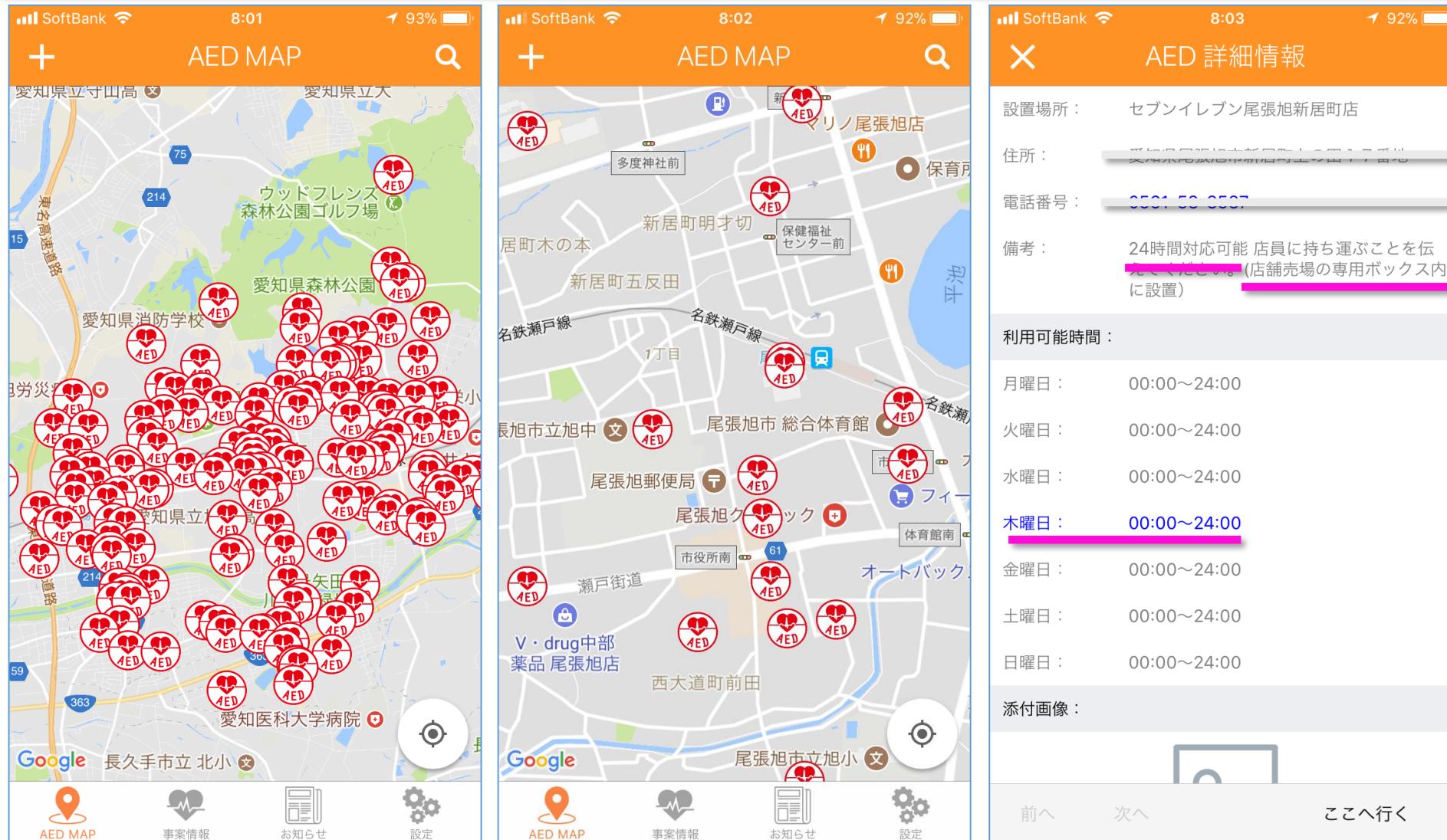


地域のAED



救命サポーター

AEDマップの充実で実現するもの (ロールモデルエリアでのイメージ)



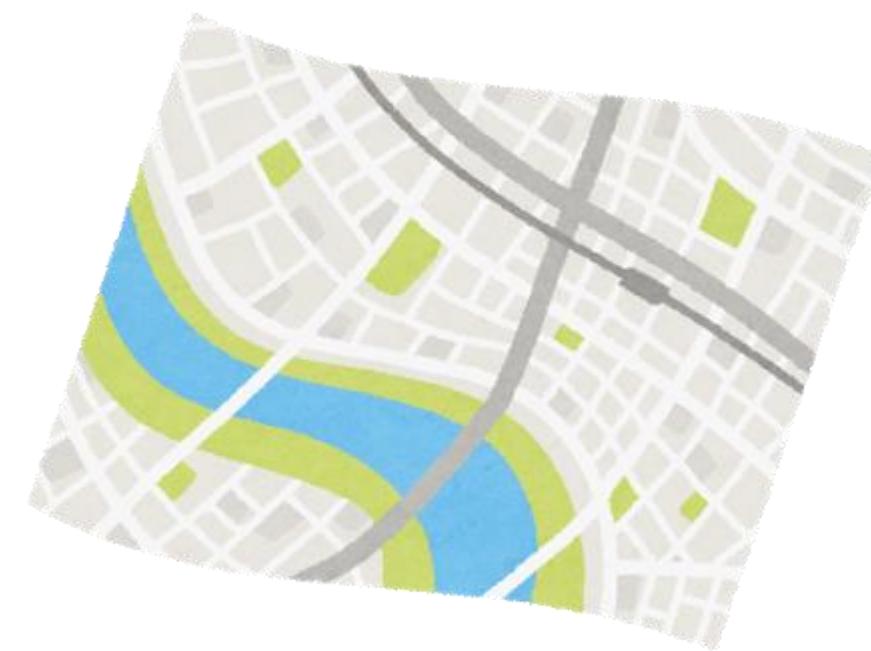
みんなで作る AED N@VI

①スマホでAEDの情報をUP

②皆で確認して

③正確なAED設置情報を
共有

情報をアップデート



集約したAED設置情報は、HPを通じてオープンデータとして提供

AED N@VI サポーター区分

利用者区分	要件	アプリでできること
 個人サポーター	メールアドレスの登録	AEDマップの閲覧 AED情報の評価 AED情報の申請 マイページ閲覧
 団体サポーター	財団が認めた企業・団体の構成員。 将来的には、マイナンバーカード等による個人認証によって個人の参加も想定	AEDマップの閲覧 AED情報の評価 AED情報の申請 マイページ + α 閲覧 申請されたAED情報の承認

AED Navi AED情報登録フロー 新規申請

新規登録



AED情報の申請

既存のAED設置情報
も活用しつつ、AED
N@VIに未登録のAED
を発見し、情報登録
申請を実施する。

AEDの新規登録

施設名 ※必須
○○小学校 1F
残り39文字

設置位置 ※必須
松屋 之大門 大門
コンベンション ホール
メルパルク東京
メルパルクホール
Google 地図データ ©2018, Google, ZENRIN 50 m
設置場所住所 ※必須
設置場所概要
2Fの玄関手前になります
残り50文字

設置場所区分 ※必須

設置場所住所に送信

AED N@VI

dawn 様 全国2位

総保有ポイント
925ポイント
今月の獲得ポイント
22ポイント
現在申請中の件数
4件

※ポイント付与について
申請1件につき3ポイント付与します。
承認されるごとに3ポイント付与します。

確認してほしいAED

所在地 距離

1 東京都港区芝大門2丁目1-16 芝大門Mビル	6m
2 東京都港区芝大門2丁目1朝川ビル	13m
3 東京都大田区蒲田5丁目13-14 大田区役所	106m
4 東京都港区芝公園4丁目7日比谷通り	369m

地図を起動



情報の承認

確認要請をもとに現場を
確認。申請された情報が
正しいければ承認する。

※申請者とは異なるサ
ポーターのみ承認可能。

AED Navi AED情報登録フロー 再評価

登録AEDの
再評価

システムからの
確認依頼

悪い評価の蓄積や、一
定の時間経過で再確認
要請を発信。



団体サポーター

情報の承認

確認要請をもとに現場を
確認。申請された情報が
正しければ承認。

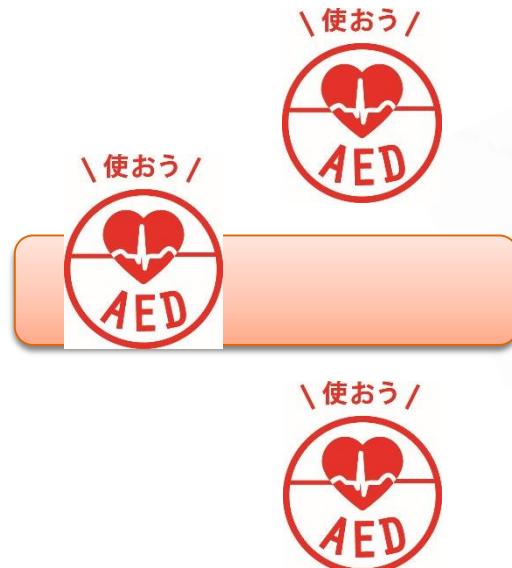
AED N@VIを基盤とした 市民参加型救命システム 将来イメージ

Social Network Servicesを活かす！



心停止発生現場

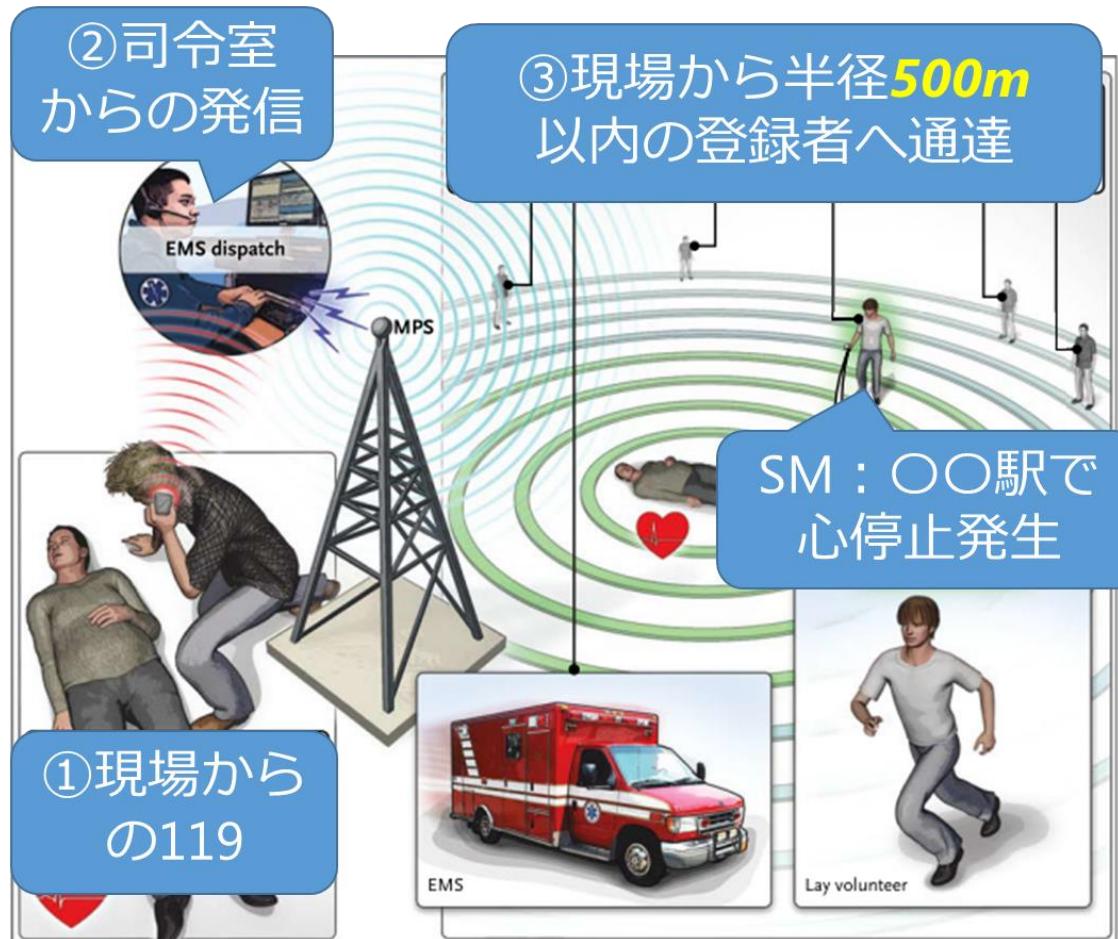
AED



AEDを使う意思と
技術を持った人たち



ソーシャルメディアテクノロジーの利用 スウェーデンの取り組み



(NEJM 2015;372:2316-25.)

バイスタンダーCPRの実施割合
62%

48%

システム未使用



システム使用

スマホを活用したAED救命体制



いつでも利用できるようにみなさまの身近なAEDを見つけてください。★印は、24時間利用できるAEDです。



《その他の公共施設のAED》

- A…森林公園(案内所)
- B…森林公園(運動施設)
- C…守山警察署尾張旭幹部交番

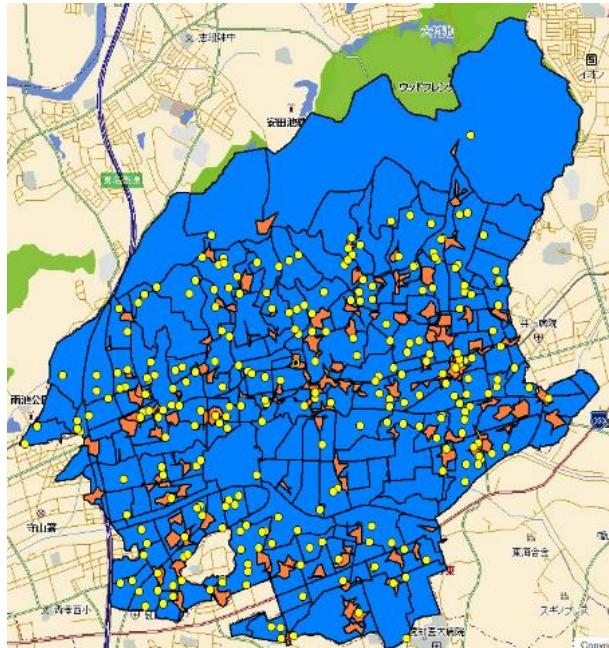
愛知県尾張旭市
コンビニにAEDを設置
地域の全てのAEDを把握
24時間大半の地域をAEDがカバーしている

※ 市営バス(あさび一号)にもAEDを積載しています。



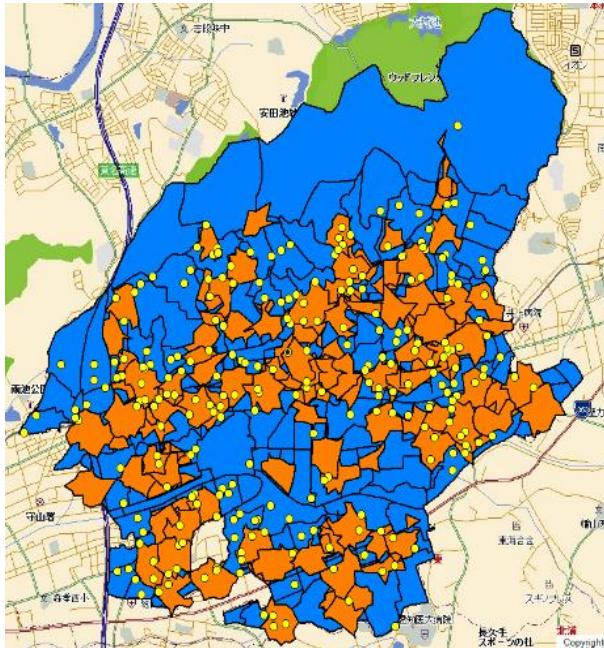
スマホを活用したAED救命体制 多くの心停止をカバー！

AEDから150m
(通常の活用範囲)



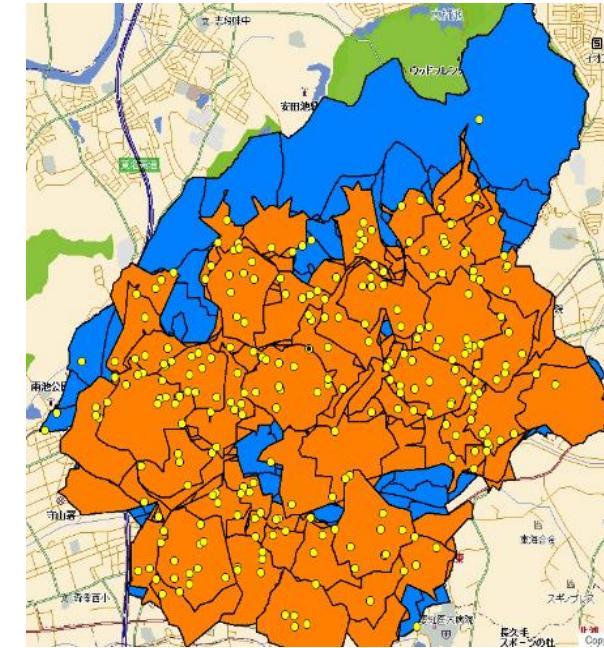
面積 : 1.37km² (8.5%)
心停止 : 35件 (**10.4%**)

AEDから300m圏内
(AED救命アプリ/徒歩)



6.80km² (32.3%)
16件 (**64.1%**)

AEDから600m圏内
(AED救命アプリ・車両)



14.36km² (68.3%)
327件 (**97.0%**)

事業内容

1. サポーターによる『今使える』AEDの情報整備と公開のロールモデルエリアでの推進
2. AEDの適切な管理と公開を促す認証制度の促進
3. 参加型のAED情報登録制度の普及と啓発イベントを通じた社会啓発



共有型AEDマップ「AED N@VI」事業概要

1. サポーターによる『今使える』AEDの情報整備と公開のロールモデルエリアにおける推進



登録されたサポーターが、随時情報を更新していく新しいAEDマップ。市民の力で正確な情報を継続的に収集する。モデル地域として小規模都市（尾張旭市）、中規模都市×2（柏市+1）、全国へと広げる

期待される成果

正確なAED設置情報の収集、AED設置情報の継続的な更新、救命システムの基盤として機能、市民参加型システムによる啓発

目標

- AED登録数 2,000台、登録ボランティア数 1,000人

2. AEDの適切な管理と公開を促す認証制度の促進

公的な使用を認めて情報公開（AED N@VIへの登録）を行い、一定の基準を満たす適切な管理を実施しているAEDを財団が認証する制度を進める

期待される成果

- AEDの管理水準の底上げ
- AED N@VIへの登録推進

目標

- 認証AED数 1,000台

3. 参加型のAED情報登録制度の普及と啓発イベントを通じた社会啓発

全国のステークホルダーを対象とし、院外心停止救命の取り組みを加速させる目的で例年開催しているAED推進フォーラムを、AED N@VIに焦点を当てて開催する

対象：ステークホルダー

期待される成果：全国各地への広い情報発信

目標：公募による参加者200人

AED N@vi事業、AED認証事業 見込み

	2019年	2020年	2021年	2022年	20XX
総AED設置数	600,000	700,000	700,000	800,000	1,000,000
新規AED販売数	90,000	100,000	100,000	120,000	150,000
AED N@VI	2019年	2020年	2021年	2022年	20XX
データ保有数	2,000	20,000	100,000	200,000	800,000
認証対象数	1,000	10,000	50,000	100,000	600,000
登録ボランティア数	1,000	10,000	30,000	60,000	100,000

